

宮建協大崎・古川工業高校

建設産業の役割周知

現場実習に7社協力

県建設業協会大崎支部（菅原伸介支部長）の会員企業7社は6日から古川工業高校土木情報科の2年生を受け入れ、現場実習を行っている。同支部は1996年から同高のインターシッ

実習に協力しており、高校生に建設産業の果たす役割の周知に努めている。

受け入れ企業の一社である佐藤工務店（加美町、佐藤敦代表取締役）では、男子生徒3人と女子生徒

1人を受け入れ、生徒たちの指導に当たった。取材当日は同社の三本木資材センターでバックホウやフルドーザーなどのICT重機の搭乗体験が行われていた。実習を

担当する早坂兼氏などの指導の下、生徒一人一人が各重機に乗り込み、内部の説明を受けて部分的な操作などを体験した。将来、建設業への就職を希望している生徒の一人は「昔から現場で作業している姿が格好いいと思

っていた。実際に現場で重機などに触れてみて、よりの興味がわいた」と話した。早坂氏は「数日という短いことを学んでもらっているが、これを機に建設業界に興味を持ってもらい、将来的には若手不足で悩む業界に来ていただければ幸いだ」と述べた。

同社ではこのほか、丁張など従来の方法で設置してもらった後、実際にドローン測量などを体験しつつ、ICTを活用することで現場がいかに便利になったかを体験できるカリキュラムを組んだ。最終日の本日は、同社の

5つの現場を巡り、2日間学んできたICT施工が実際の現場でどのように活用されているかを見学する。

現場実習には同社のほか、金原土建（大崎市古川）、木戸建設（加美町町裏）、佐々木組（大崎市田尻）、菅甚建設（同市鳴子温泉）、丸か建設（加美町赤塚）、村田工務所（大崎市古川）の6社が生徒を受け入れた。



丁寧な指導の下、ブレード操作にチャレンジする生徒（佐藤工務店の現場）